

本を読むことの愉しさ、深さ、おそろしさ (全3回)

本を読む「愉しさ」から「深さ」、さらに「おそろしさ」へ…。
「知の技法」編者と共に読書の醍醐味について考えていく全3回講座を開催します。

■第1回 1月20日(水) 18:30~20:00 (受付 18:00~)

「若者よ、都市(まち)を捨てて、本を読もう — いま、寺山修司を回転させる — 」



寺山修司が若者へ「書を捨てよ、町へ出よう」と激しい言葉を投げつけたのが1967年。それから半世紀の時間が流れ、若者はいま「インターネット」という都市(まち)のなかに住みついて、書を顧みることますます稀です。だが「インターネット」には「情報」という無時間なものが溢れているだけ。しかし、本の頁をあけると、そこからは、「生きた時間」の香りが立ち昇ります。そのように、寺山修司の「生きた時間」の輝きをつかみ取ろうと、一みなさんといっしょに一試みます。

講師：小林康夫(青山学院大学特任教授)

1950年、東京都生まれ。表象文化論。現代哲学。東京大学大学院総合文化研究科教授を経て、上記現職。著書に『起源と根源』(未来社)、『君自身の哲学へ』(大和書房)ほか多数。編著に『知の技法』シリーズ(東京大学出版会)など。

■第2回 2月10日(水) 18:30~20:00 《12月25日申込受付開始》

「読書のチェス・プレイ — 文学的〈読み〉を勝負する — 」

対談：朝吹真理子(作家)×小林康夫

愛する作品をチェスの駒のように用いて行う読書のゲーム。批評と愛が交錯し、その夜、会場はチェスの盤となります！小説の書き手と読み手とのあいだでかわされる、激しくも優しい〈一手〉の応酬をお楽しみください。



写真提供・新潮社

■第3回 3月2日(水) 18:30~20:00 《1月25日申込受付開始》

「言葉の光を求めて — 見知らぬ土地を歩くように — 」

対談：黛まどか(俳人)×小林康夫

俳句、それは極めてわずかな言葉を切り取ってみせる世界の風光です。そんな極限的な言葉のかたちについて、どう読んでいくかを俳人の黛まどか氏と共に語り合い、「読むこと」の限りなさに触れてみる一夜。それは同時に、「生きること」の限りなさに通じていくものかもしれません。



©MPd F8PHOTO

開催概要

- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール) ○ 定員：各200名(申込順)
- 参加費：各500円(千代田区民および学生は無料) ※千代田区民の方は住所が確認できるもの、学生の方は学生証をお持ちください。
- 申込方法：来館(1階受付)、電話(03-3502-3340)、Eメール(college@hibiyal.jp)いずれかにて
① 講座名、②お名前(ふりがな)、③電話番号をご連絡ください。
- 主催：公益財団法人上廣倫理財団 ○ 共催：千代田区立日比谷図書文化館